

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 23 日

所属	人間社会学部	職名	専任講師	氏名	丸浜 千紘
研究課題	学生のライフ・キャリアイメージの形成支援と子育て支援を結ぶ				
研究キーワード	子育て支援 ピア・サポート ライフ&ワークバランス キャリア教育	当年度計画に対する達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	該当なし	

1. 研究成果の概要

大学キャンパスの中に子どもサロンの設置をめざし、運営には学生が携わり、学生と子どもたち、そしてその保護者との他世代交流の場を作り上げることを目的として研究を進めている。サロンの運営参加を通じて学生がライフプラン・キャリアプランについて考えることを合わせてめざし、学生たちが 10 年後 20 年後の自分たちの未来をイメージできるようサポートすることで、学生にとっての学びの場として位置付けている。

スリール株式会社の調査では、出産経験のない働く女性の 92.7%が仕事と子育てを両立することに対する不安を感じていることが示されていた（両立不安白書, 2019）。担当している「子どもと家族の心理学」の授業の中で、結婚や出産について触れる回での学生の反応を見ても、「ネガティブな情報が多くて、自分が子どもを育てられるのか心配」という声が少なからず聞かれる。こうした傾向の根っこには「将来の具体的なイメージが持てない」という不安があるとスリール株式会社の代表、堀江は指摘している（『新・ワーママ入門』2019）。堀江は同時に、大学のキャリア支援として就職だけでなく、その先にある人生の設計図を描くサポートをしていく必要性も指摘しており、非常勤で大学でのキャリア関連科目などを担当している。こうした傾向を踏まえて、本学でも学生のライフワーク丸ごとを共に考えていく場を作る取り組みをスタートさせた。

【ワーク&ライフ・インターン プログラム】

自分の 10 年先をイメージし、どんな働き方をしたいのか、どんな生き方をしたいのかをイメージすることで、社会に出ていくことへのプラスイメージを育てることが目的である。仕事と子育てのリアルについて直接話を聞くことで、将来の長期的なキャリアを考えることができる。「働くこと」、「家庭を築くこと」を学び、子どもとの触れ合いも実際に体験することで、自分のなりたい姿を描くことをめざす。

実施日時・場所

第 1 回：Day1=6/2(土) Day2=7/9(土) 各日 10:00~15:00 @千葉商科大学 527 教室

第 2 回：Day1=12/10(土) Day2=1/14(土) 各日 10:00~15:00 @千葉商科大学 527 教室 / QT 市川

参加学生

第 1 回：12 名 第 2 回：3 名

学生のプログラム参加動機

*将来に対してイメージができず、不安が多いので、多くの大人の方のお話を聞いてみたいと思った。ライフプランをしっかりと考えたい。何歳くらいにどうなっているかを共有したり参考にしたりできると思ったから。

*多様な生き方に興味がある。自分の将来にどんな選択肢があるのかを知りたいから。

*社会人のリアルな生き方を聞く機会があまりないので、聞きたいと思ったから。その話を通して、将来の自分について考えたい。

プログラムの事前事後アンケート比較

事前アンケートでは、「将来に対してのイメージが持てない」「就活が不安である」「自分ができることは小さい」という項目が顕著に高く、社会に出て働くことに対して「わからない」「不安だ」という思いが前面に出ていた。事後アンケートでは「将来に対してのイメージが持てない」という不安感が大幅に下がり、『様々なライフステージがあることがわかった』『どんな気持ちで人生の転機を迎えるかイメージが湧いた』とコメントがあった。

10代～20代の若者世代が、20～30代の「自分達の10年後」にあたる世代と接点を持つ機会は実はあまり多くなく、人生のロールモデルやメンターとなる存在と出会うことが難しくなっている。「知らない」ということが社会に出ることへの不安や忌避感につながっていることも考えられる。今回のプログラムで、一方的に話を聞くのではなく、聞いてみたいことを直接質問できたということも参加学生にとって大きな学びの体験であったようである。

(本文は2ページ以内にまとめること)

2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

特記なし

3. 主な経費

- ・ 学生研修プログラム業務委託費（資料作成代および講師料）
- ・ 学生の事前事後学習必要経費（文房具など）

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特記なし

(本文は2ページ以内にまとめること)